

天龍寺 周辺エリア

～渡月橋・桂川・亀山・嵐山・
天龍寺参道～

エリア概要

- 嵐山及び嵐山南地域では、兩岸の山容や渡月橋・中ノ島などが自然風景と営造物とが調和のとれた巧みな風景的变化を作り出し、天下の名勝として親しまれている。特に、春の桜、秋の紅葉など、季節感の豊かさを感じさせることから日本的風景の代表ともいい得る一帯である。その北岸には天龍寺、南岸には法輪寺など、背後の山景と一体化した伽藍も、この地域に風趣を添えている。
- 嵐山は、平安時代以来の歴史を有する名所として名高い地であり、嵐山、小倉山、大堰川などの自然景観と、渡月橋、天龍寺、法輪寺などが優れた風景を構成し、全体に豊かな緑の中に、勾配屋根をもつ和風建築が控え目に見え隠れしている。

- また、天龍寺周辺の地区では、日本瓦屋根の和風建築と本瓦付き和風塀による伝統的な土塀と小さな堀割りが趣のある景観を構成している。
- 渡月橋北西岸部では、沿岸には樹木の緑が続き、木造和風建築物が川岸から後退して樹間におさまり落ち着いた趣のある景観が見られる。中ノ島では平屋を主とする伝統的和風の店舗・料亭などが数寄屋の味わいをもつ町並みを形成している。中ノ島と桂川南岸の間の川には、両側の建物が開放的な座敷などをもうけて、川辺の風情を演出している。北岸の渡月橋下流部や南岸部には比較的規模の大きい建築が並ぶが、勾配屋根などにより全体の風景の中に収まっている。

天龍寺（世界遺産）

後醍醐天皇が没し、夢窓疎石は足利尊氏・直義の兄弟に天皇の冥福を祈るための寺の建立をすすめ、亀山殿の地に天龍寺を造営した。¹⁾

天龍寺には、美しい庭園があり、嵐山や愛宕山などを借景としている。庭園内の近景は、寺院において日々の手入れが欠かさず行われ、美しい状態が保たれている。



天龍寺庫裡



天龍寺庭園

亀山・嵐山

亀山の麓には天龍寺が位置し、かつては王朝貴族の遊興地であった。天龍寺の背景に、背後の嵐山とも一体となった景観が見られる。



- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り

長辻通

応永32年（1425）の史料では、天龍寺の門前や周辺には在家が立ち並ぶ様子が描かれ、当時嵯峨は寺院を中心に商工業・運送業者の集住する都市ともいえる様子を呈していた。当地には、大覚寺・二尊院などの所領が混在していたが、天龍寺領が圧倒的に多かった。江戸時代の中頃では家数176軒であり、当村は材木の郵送と加工に携わる人々が集住する所であった。⁵⁾ 日本瓦ぶきの和風建築と日本瓦付き和風塀による伝統的な土塀と小さな堀割りが趣のある景観を形成している。



長辻通

通り沿いには伊勢斎宮の野宮神社が位置し、参道には竹林が見られる。



竹林

渡月橋・桂川

桂川は慶長11年（1606）に開削され、京都の重要な河港となった。²⁾ 渡月橋は9世紀前半には架橋されていた可能性があるという。³⁾ 周辺の嵐山等の山々と一体的な景観を形成している。



臨川寺周辺

臨川寺の門前や周辺には在家が立ち並ぶ様子が描かれた。⁴⁾ 臨川寺周辺の通りは古くから絵図に描かれ、現在は塔頭が建ち並び、古い宅地が所々に見られる。

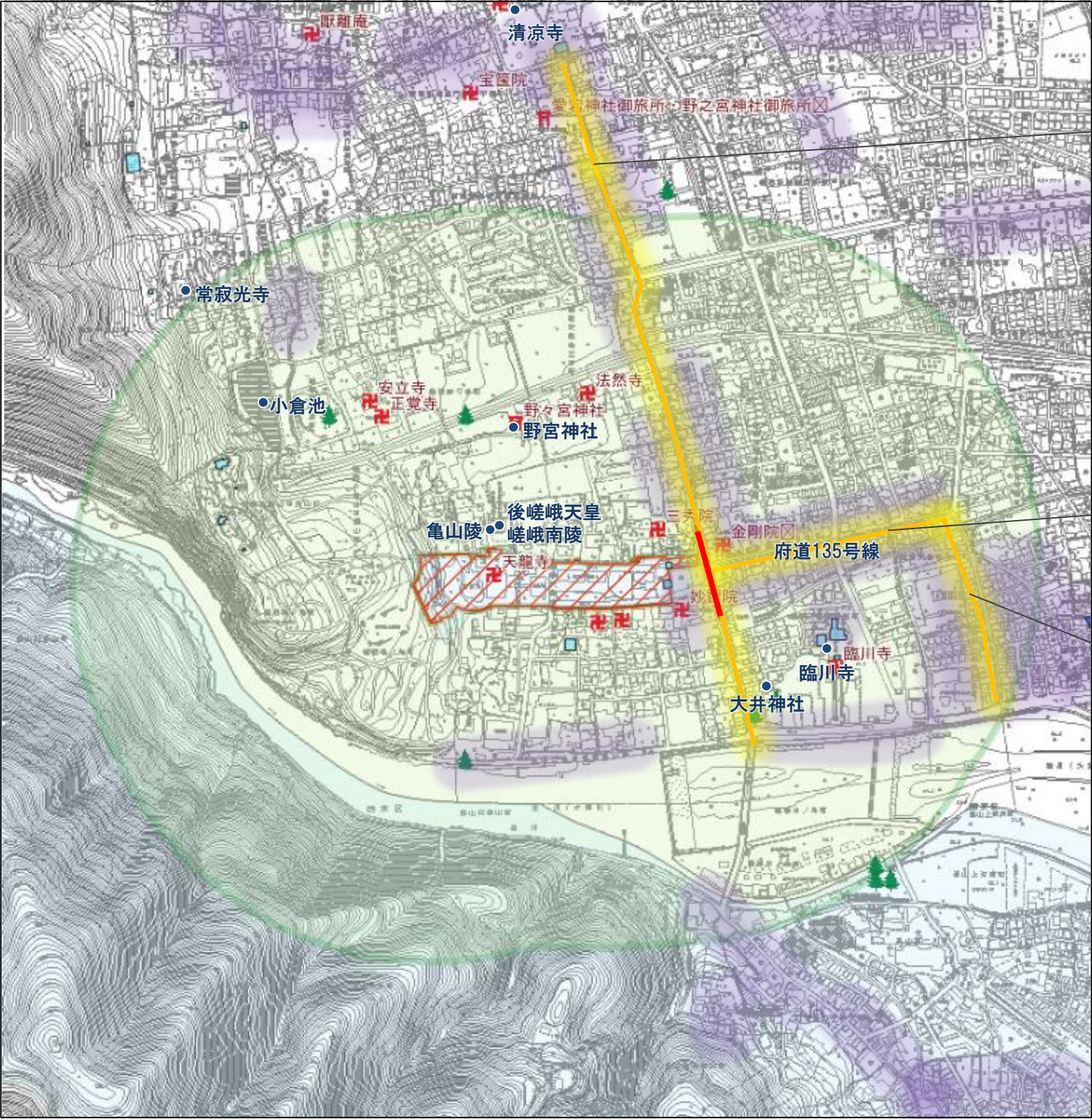


東西の通



南北の通

エリアの概要



天龍寺・臨川寺門前

応永32年（1425）の史料では、天龍寺・臨川寺の門前や周辺には在家が立ち並ぶ様子が描かれ、当時嵯峨は寺院を中心に商工業・運送業者の集住する都市ともいえる様を呈していた。当地には、大覚寺・二尊院などの所領が混在していたが、天龍寺領が圧倒的に多かった。江戸時代の中頃では家数176軒であり、当村は材木の輸送と加工に携わる人々が集住する所であった。⁶⁾
塔頭が建ちならび、日本瓦葺きの和風建築と日本瓦付き和風塀による伝統的な土塀と小さな堀割りが趣のある景観を形成している。



長辻通

臨川寺周辺の通りの町並み



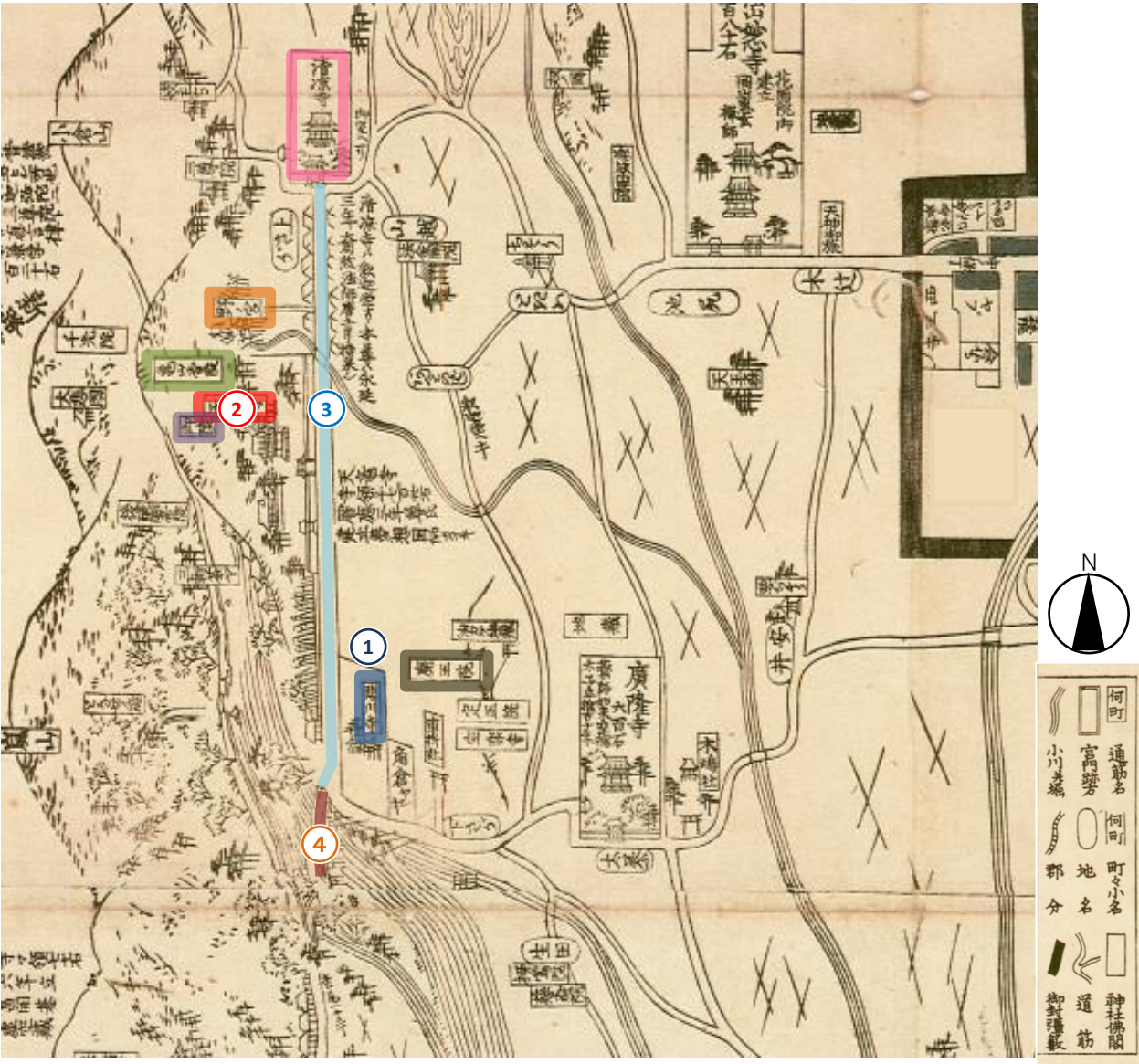
【凡例】		
	視点場（境内）	建造物・庭園
	視点場（参道等）	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
	近景デザイン保全区域	歴史的意匠建造物
	特に着目する通り	界わい景観建造物
	明治25年以前から存在する市街地	京を彩る建物や庭園
	界わい景観整備地区	文化財（建築物）
		文化財（史跡・名称）
		国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

①臨川寺

鎌倉時代に後嵯峨上皇が亀山の麓に亀山殿を造営し、景勝の地を生かした大規模な御所をつくった。南北朝時代に亀山殿内川端殿に臨川寺が建てられた。⁸⁾ 臨済宗天竜寺派の寺である。⁹⁾

②天龍寺

後醍醐天皇が没すると、夢窓疎石は足利尊氏・直義の兄弟に天皇の冥福を祈るための寺の建立をすすめ、亀山殿の地に天龍寺を造営した。¹⁰⁾

③天龍寺・臨川寺門前

応永32年(1425)の史料では、天龍寺・臨川寺の門前や周辺には在家が立ち並ぶ様子が描かれ、当時嵯峨は寺院を中心に商工業・運送業者の集住する都市ともいえる様を呈していた。当地には、大覚寺・二尊院などの所領が混在していたが、天龍寺領が圧倒的に多かった。江戸時代の中頃では家数176軒であり、当村は材木の郵送と加工に携わる人々が集住する所であった。¹¹⁾

④渡月橋

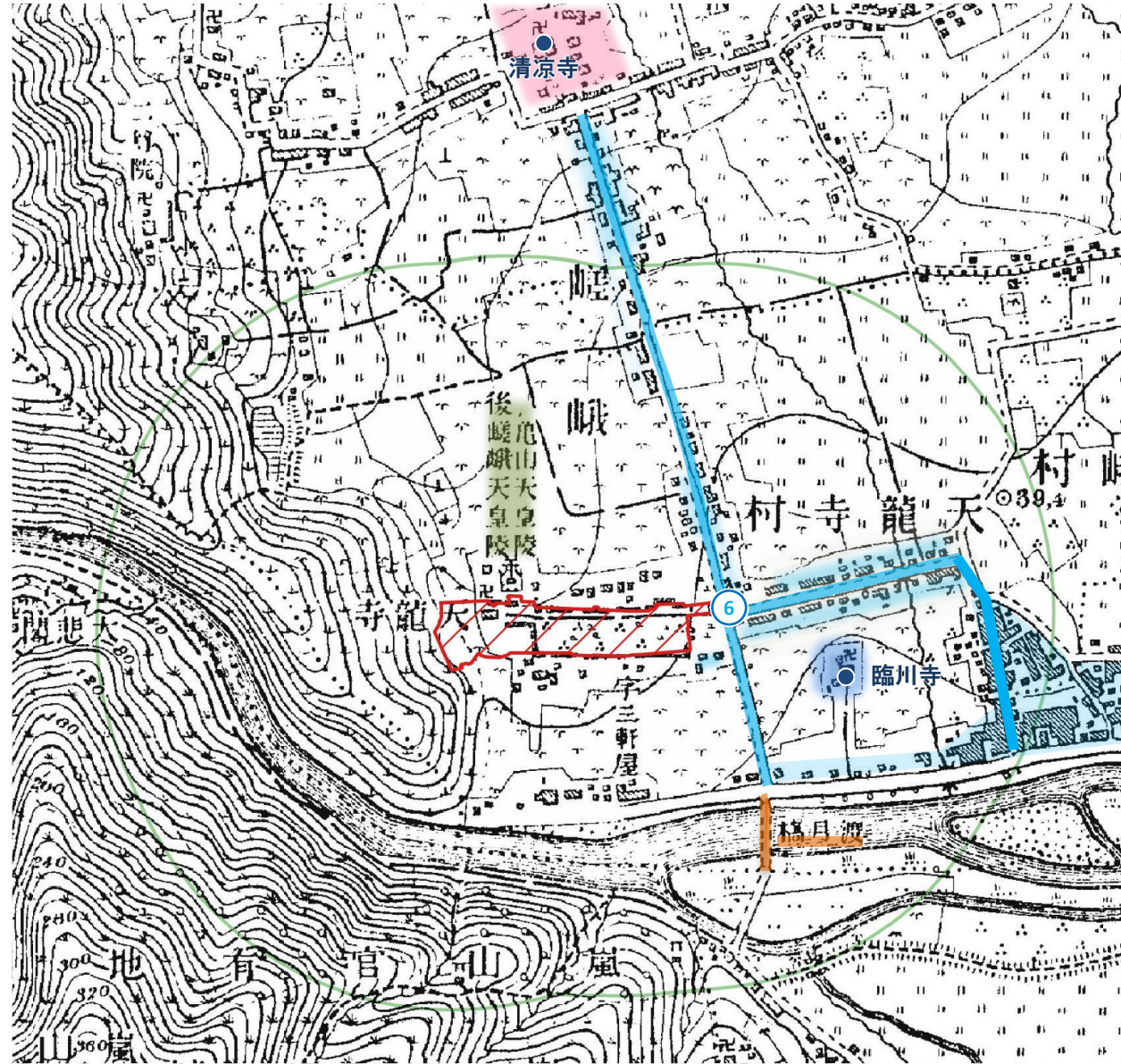
9世紀前半には架橋されていた可能性があり、中世に渡月橋と呼ばれるようになった¹²⁾

○桂川

慶長11年(1606)、角倉了以によって開削され、京都の重要な河港となった。これにより、丹波国から材木・薪・米穀などが運ばれ、嵯峨は梅津・桂とともに京都大阪への流通の独占をはかった。¹³⁾

エリアの土地利用の変遷（2）

明治25年(1892年)



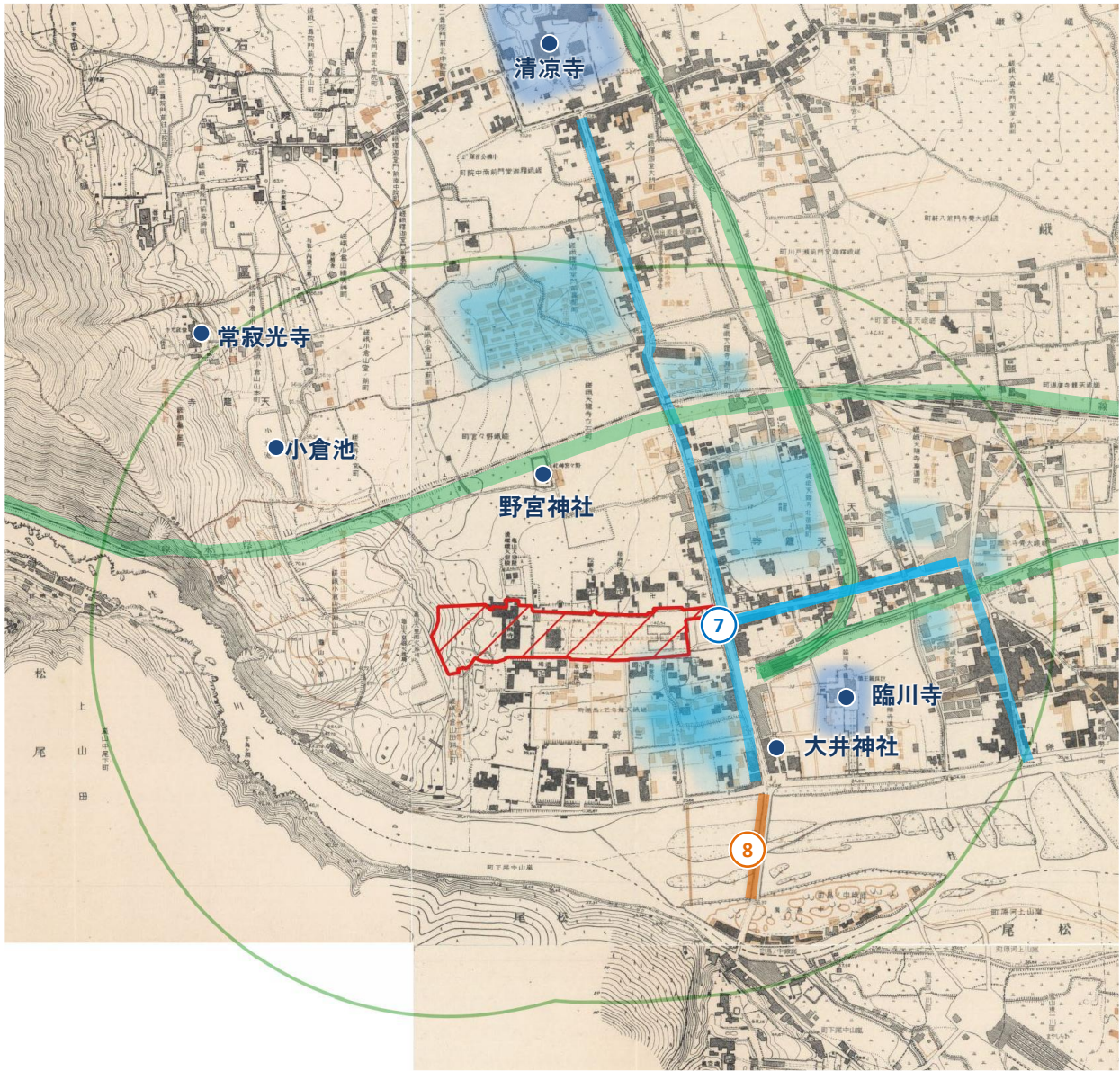
近景デザイン保全区域
視点場（境内）

資料：仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑥天龍寺・臨川寺門前

清涼寺から渡月橋までの間と臨川寺周辺が市街化している。

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

⑦天龍寺周辺

京都鉄道が京都嵯峨間で開通し、明治32年には園部までつながったこと、明治43年には嵐山電車（京福電車）が営業をはじめたことにより、市街化が進んだ。¹⁴⁾

⑧渡月橋

現在の橋は昭和9年建造である。¹⁵⁾

天龍寺

天龍寺は嵐山を背景として建長7年（1255）に造営された離宮、暦応2年（1339）に亀山殿の跡地へ建立された禅寺へ改めたものである。当初は三門、仏殿、法堂、方丈が一直線上に並び、典型的な禅宗寺院の伽藍が整えられ、さらに方丈の裏には夢窓疎石が携わって、自然の地形を大きな築山に見立てた庭園が造られた。その後、たびたび兵火によって主要伽藍は失われたが、庭園は現在ものこり、園池の北汀から東汀にかけては作庭後何回か手が加えられているものの、当時の趣を伝えている。また、この庭園は天龍寺庭園として、特別名勝に指定されている。

滝石組、石橋、岩島等の石組を立てたダイナミックでしかも繊細な趣の池庭であり、方丈からの眺めを重視した構成や石組の手法は室町時代以降発展する枯山水庭園や護岸石組に影響を与えている。¹⁶⁾

文化財

国指定史跡及び名勝	嵐山	258			
国指定史跡及び特別名勝	天龍寺庭園	262			
府指定文化財	勅使門	413	中門	414	

〔国指定史跡及び名勝〕



嵐山※

〔国指定史跡及び特別名勝〕



天龍寺庭園

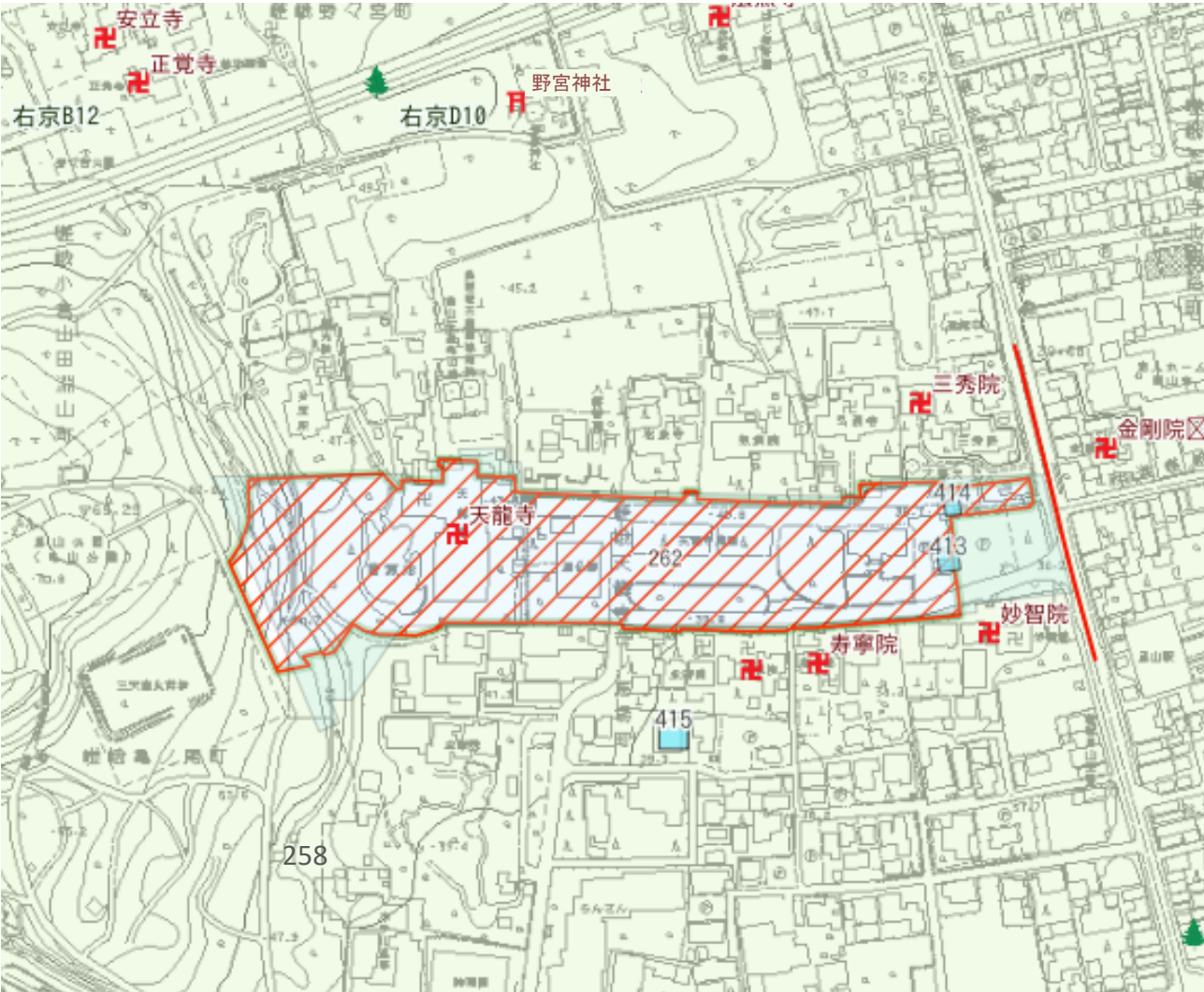
〔府指定文化財〕



勅使門※



中門※



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

天龍寺周辺エリア

5



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建築物・庭園

景観重要建築物・歴史的風致形成建築物

歴史的意匠建築物

界わい景観建築物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

天龍寺塔頭

天龍寺塔頭リスト

松巖寺	慈濟院	弘源寺	三秀院	妙智院
寿寧院	等観院	永明院	宝巖院	臨川寺
金剛院				

金剛院

三秀院

妙智院

寿寧院

等観院

清涼寺

※

大覚寺の西にあり、五台山と号し、浄土宗。「せいりょじ」とも訓じ、通称を嵯峨の釈迦堂という。本尊釈迦如来。
左大臣源融の山莊棲霞観を前身とする清涼寺は、やがて融通念仏の大道場となり、大念仏狂言が行われる3月には「洛中辺土の道俗男女雲のこつくにのそみ星のこつくにつらなりて群集す」（融通念仏縁起）という庶民信仰の寺となった。¹⁸⁾

常寂光寺

※

小倉山の東山腹、二尊院の南に位置する。日蓮宗。本尊十界大曼荼羅。
もと天龍寺の塔頭であった弘源寺を本圀寺（現山科区）の日禎上人が寛永年中（1624-44）退隠居に譲受け、日蓮宗本圀寺末寺となし、常寂寺または軒端寺と称した。本堂は慶長年間（1596-1615）伏見桃山城の建物の一部で運営し、釈迦如来を安置。仁王門は本圀寺脚殿の南門を元和2年（1616）に移築。仁王像（金剛力士像）は高さ七尺余りあり、若狭小浜（現小浜市）の長源寺から移したもので、運慶作と伝える。¹⁹⁾

野宮神社

※

天龍寺の北にあり、伊勢斎王の野宮の旧地。祭神は天照大神。旧村社。境内に末社として愛宕神社・松尾神社・若宮八幡宮を祀る。²⁰⁾

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

6

天龍寺周辺の歴史的資産(2)

臨川寺

[市指定文化財(開山堂・客殿及び中門)]



開山堂・客殿及び中門

天龍寺の東、渡月橋の北に位置する。靈龜山と号し、臨濟宗天龍寺派。本尊弥勒菩薩。寺地は龜山法皇の離宮龜山殿のうち、川端殿の跡地にあたる。離宮は法皇から皇女昭慶門院嘉子内親王、さらに後醍醐天皇皇子世良親王に譲られたが、親王は若くして死去し、遺命により北畠親房が禅刹とし、所領を寄付して本元を開山に禅院を建て、親王の菩提を弔った。²¹⁾

車折神社



有栖川の西、旧下嵯峨街道の北に鎮座。祭神は平安末期の儒者・明経博士の清原頼業（文治5年没）。旧村社。古くこの地は清原氏（舟橋家）の菩提寺宝寿院の域内で、本殿は頼業の墓所の地といわれる。「山州名跡志」は五道冥官社として載せ、「所レ祭五道明官」と記し、門前右側に車前石と称される石があるという。²²⁾

鹿王院



※

臨濟系単立寺院。覚雄山大福田宝幢禅寺という。本尊釈迦如来。足利義満が「一伽藍ヲ建立セバ、寿命ヲ可増長ト」夢見て（山州名跡志）、普明国師（妙葩）を開山として建立、宝幢菩薩を安置して宝幢寺としたのが始まりである。同年に開山堂を建立するが、そこに野鹿が現れて群をなしたことから鹿王院と称した（鹿王院記）²³⁾

渡月橋



※

右京区嵐山の大堰川（桂川）に架かる橋。「扶桑京華志」は嵯峨天皇の行幸に際して架設されたのを最初とするが、9世紀前半には架橋されていた可能性がある。平安期には南岸の法輪寺にちなんで法輪寺橋と呼ばれ、中世に渡月橋と呼ばれるようになったが、起源には龜山上皇の命名とする説のほか諸説あって断定できない。現在橋は昭和9年建造の鋼桁橋で、長さ155メートル。主要地方道宇多野嵐山桎原線が通る。²⁴⁾

亀山



右京区嵯峨西方の小倉山から南東にのびる尾根。標高200～280メートル。山名は形状が亀の形に似ることに由来し、亀の尾山・嵯峨の山ともいう。歌枕の一。一帯は嵐山（亀山）公園となり、景勝地。山頂から保津峡の眺望もすぐれる。山麓は王朝貴族の遊興地で、後嵯峨天皇の離宮龜山殿（現天龍寺）が営まれた。²⁵⁾

天龍寺十境



貞和2年（1346）夢窓国師により亀山十境が定められたが（天竜紀年考略）、これが天龍十境である。すなわち普明閣。絶唱溪・靈比廟・曹源池・拈華嶺・渡月橋・三級岩・万松洞・龍門亭・亀帖塔である。普明閣は三門の雅称で壮麗な楼閣であった。絶唱溪は大堰川の清流、靈比廟は康永3年（1344）夢窓が靈夢により八幡大菩薩を祀った鎮守八幡宮、曹源池は万丈集瑞軒の夢窓作の庭園。拈華嶺は現在の嵐山である。渡月橋は現在の位置より川上一町ばかりのところにあった。²⁶⁾

天龍寺周辺のその他の歴史的資産、地域景観づくり協議会

■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等

〔府指定文化財〕



旧小林家住宅※
府指定

〔国登録文化財〕



大河内山荘 大乘閣※
国登録



大河内山荘 滴水庵※
国登録



大河内山荘 持仏堂※
国登録



大河内山荘 中門※
国登録

■ 樹木等

ケヤキ：嵯峨公園

右京B12

【区民の誇りの木】



公園は嵐山界隈の名所名刹を結ぶ観光路の一角にあります。ケヤキの他にもクスノキなどの大木があり、静かな町並みをつくるのに大いに寄与しています。ケヤキは四方に雄大な枝を伸ばし、自然な樹形をしています。

アカマツ：桂川（渡月橋上流）

右京D11

【区民の誇りの木】



渡月橋を中心とする嵐山界隈は日本を代表する観光地です。左岸側を上流方向に歩くと亀山公園に至ります。かつてはアカマツ林がありましたが、多くのマツがマツクイムシ等の被害にあい少なくなりました。

現在でも付近の民家や寺に多くのマツがあり、嵐山の景観を形づくる大きな要素となっています。

クロマツ：桂川（渡月橋下流）

右京D13

【区民の誇りの木】



桂川沿いに古くからある松並木の街道の景観をしのばせるものとなっています。

タケ：嵯峨野々宮町

右京D10

【区民の誇りの木】



この付近は歴史的風土を良く保ち、竹林は優れた景観を形成しています。

エノキ：桂川（渡月橋下流）

右京D12

【区民の誇りの木】



渡月橋からの景観は見応えがあり、広い空間でのびのびと枝を広げています。

■ 嵐山まちづくり協議会(地域景観づくり協議会)について

嵐山まちづくり協議会は、地域に固有の景観、静かな環境、古都の風情を保全・継承していくため、地域で創設された組織であり、平成30年度に「地域景観づくり協議会制度」の認定を受けています。

1) まちづくりの基本目標

どのような「まち」をめざすのか・・・将来のかたち

嵐山の魅力は、「大堰川が作る豊かな水辺」「四季折々に美しい景観を誇る嵐山の自然」「渡月橋・天龍寺などの歴史的建造物とのかたち」にあり、これらすべての要素とします。

自然と歴史的建造物が織りなす調和を守り生かしていく「まち」へ

山・川・自然の美しさを継承し、これに調和する杜宇や建物の歴史的建造物が、織りなす嵐山の景観の魅力を最大限に生かすまちづくりを目指します。

住民が誇りを持てる「まち」へ、そして人々が何度も訪れたい魅力を持つ「まち」へ

渡月橋・天龍寺・嵯峨野々宮中心に、嵐山の魅力をいかに生かすかを考える。その中で、自然の美しさを生かすまちづくりを目指す。

芸術・工芸、食など、文化的にも向上させていく「まち」へ

歴史・文化・自然の魅力を最大限に生かすまちづくりを目指す。食や工芸・アート・芸術・音楽などを通して、地域文化を盛り上げるまちづくりを目指す。

エリアごとの特徴ある雰囲気大切にします

それぞれのエリアによって異なる雰囲気をもつまち、嵐山の魅力を最大限に生かすまちづくりを目指す。

景観のまちづくり

大堰川沿いの景観を大切にしたい。大堰川沿いの景観を大切にしたい。

大堰川沿いの景観

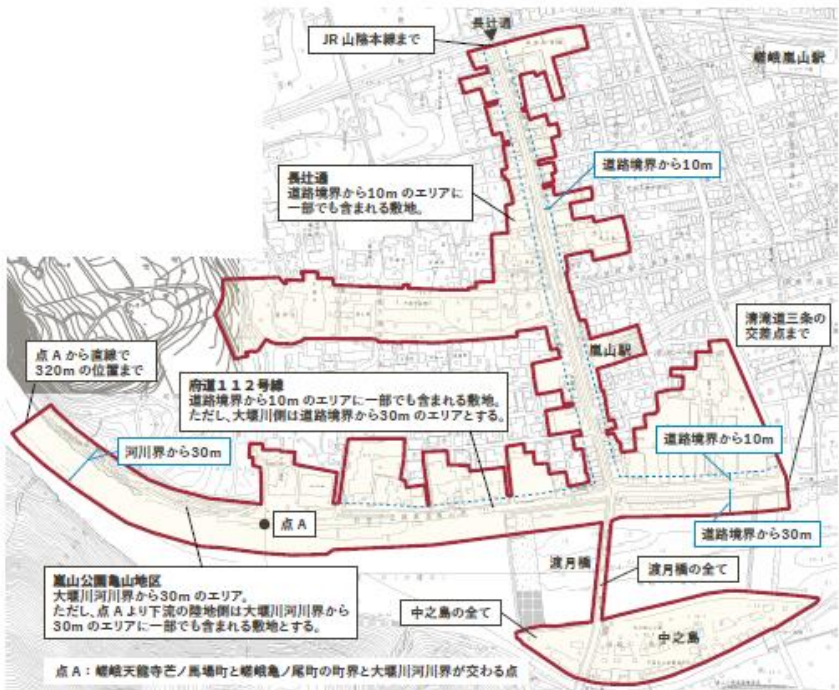
大堰川沿いの景観を大切にしたい。大堰川沿いの景観を大切にしたい。

大堰川沿いの景観

大堰川沿いの景観を大切にしたい。大堰川沿いの景観を大切にしたい。

2) 協議区域

協議区域は、嵯峨天龍寺立石町、嵯峨天龍寺瀬戸川町、嵯峨天龍寺芒ノ馬場町、嵯峨天龍寺北造路町、嵯峨天龍寺造路町、嵯峨龍ノ尾町及び嵯峨中ノ島町のうち、下図に示す区域とする。



※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

嵯峨嵐山風致地区

【概況】

当地区は、山越・宇多野地域、梅ヶ畑地域、車折神社周辺、北嵯峨、嵯峨野、清滝、高雄、嵐山及び嵐山南地域、松尾山際地域、梅宮大社の参道、桂等から構成されている。
山越・宇多野及び梅ヶ畑地域の宅地は、敷地規模が大きく、緑化が行き届いており、車折神社周辺は、神社のこんもりとした樹林と周辺宅地の道路側緑化が見られる。また、北嵯峨・嵯峨野地域では、遍照寺山のなだらかな山景、その周りに平坦に広がる農地、さらに、豊かな敷地内緑化等を合わせて、質・量共に優れた緑が見られる。清滝及び高山寺・高雄については、四季を彩る木々や林業による美しい植林に代表されるように、森林による自然景観が維持され、宅地側についても周辺の恵まれた自然と一体となって深山の趣を感じさせる魅力ある緑豊かな景観を形成している。松尾については、豊かな緑が保全されており、西芳寺南側の山ろくの市街化区域の宅地も、後背地の山地と一体的に緑を主体とする自然景観を保持している。桂離宮周辺については、離宮の大きな森が、この地域の重要な景観資源となり、西側の旧集落の建物敷地には、豊かな緑化が施されている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●北嵯峨及び嵯峨野地域の歴史豊かな風景

北嵯峨及び嵯峨野地域では、広沢池や大沢池が人工的な形状をもつが、背景をなす遍照寺山のなだらかな山景と一体化し、その周りに平坦に広がる農地をも合わせ、京の雅を代表する風景を今に伝えている。この北嵯峨からの嵯峨野風景がつづく山ろく部一帯は古くから隠棲の地として知られ、物さびた風情の中に寺院や庵居跡等がある。また、小倉山西麓ろく部では、平家物語ゆかりの史跡群や竹藪の続く小道等が独特の風景を醸し出している。このため、これらの風致の維持を図る。

●大覚寺正面の参道等の風趣ある和風空間

大覚寺正面の参道には比較的規模の大きい住宅が並び、沿道は生垣を主とする中に質の高い和風の塀が混じり、造りのよい伝統的な門構えの緑豊かな風趣ある和風空間を醸し出している。また、天龍寺から清凉寺、二尊院を経て鳥居本に至る愛宕街道は、中世以来参詣の往来も多く、門前の町家や民家が愛宕街道の歴史的景観を伝えており、特に天龍寺付近と清凉寺門前は伝統的な町家が軒を連ねている。さらに、近代になって建築された住宅は、生垣を設け道路から後退し、数寄屋風の意匠も多く、嵯峨野の街道景観との調和と雰囲気演出が見られる。このため、これらの風致の維持を図る。

●嵐山の歴史的・自然的環境

嵐山は、平安時代以来の歴史を有する名所として名高い地であり、嵐山、小倉山、大堰川等の自然景観と、渡月橋、天龍寺、法輪寺等が優れた風景を構成し、全体に豊かな緑の中に、勾配屋根をもつ和風建築が控え目に見え隠れしている。こうした自然と和風建築物が調和した歴史的・自然的環境の保全に重点を置く。

●天龍寺周辺の和風空間

天龍寺周辺の地区では、日本瓦ぶきの和風建築と日本瓦付き和風塀による伝統的な土塀と小さな堀割りや趣のある景観を構成しているため、このまとまりのある和風空間の維持に重点を置く。

●渡月橋北西岸部の風情

渡月橋北西岸部では、沿岸に樹木の緑が続き、木造和風建築物が川岸から後退して樹間におさまり落ち着きのある景観が見られ、中ノ島では平屋を主とする伝統的な和風の店舗・料亭等が数寄屋の味わいをもつ町並みを形成し、中ノ島と桂川南岸の間の川には、両側の建物が開放的な座敷等を設け、川辺の風情を演出している。北岸の渡月橋下流部や南岸部には比較的規模の大きい建築が並ぶが、勾配屋根等により全体の風景の中に収まっている。このため、それぞれの風情の保全に重点を置く。



1) 天龍寺門前のまちなみ



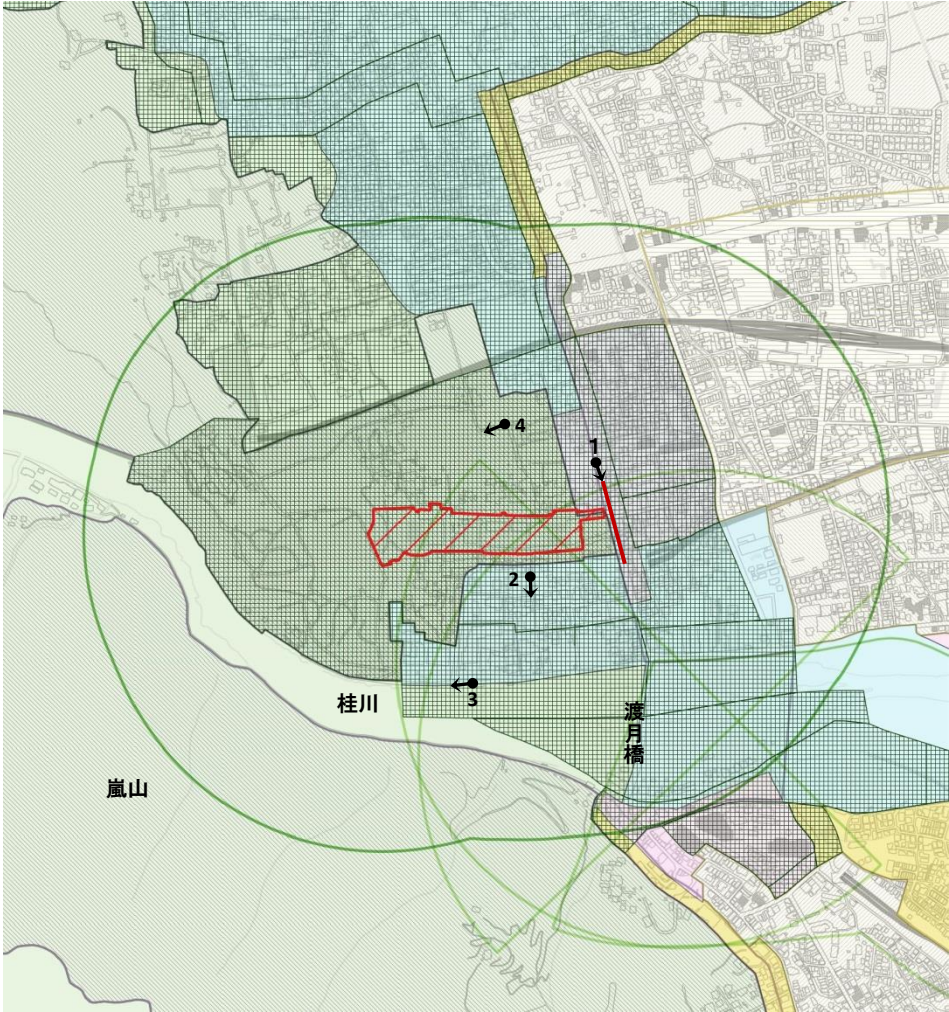
2) 天龍寺南側（日本瓦ぶきの和風建築と日本瓦付き和風塀のまちなみ）



3) 渡月橋北西岸部



4) 野宮神社参道の竹林



【凡例】	
眺望景観保全区域	景観地区
視点場（境内）	山ろく型美観地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区
近景デザイン保全区域	岸辺型美観地区
風致地区	旧市街地型美観地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域
風致地区第5種地域	沿道型美観地区
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区
建造物修景地区	沿道型美観形成地区
山ろく型建造物修景地区	
山並み背景型建造物修景地区	
岸辺型建造物修景地区	
町並み型建造物修景地区	
その他	
伝統的建造物群保存地区	
歴史的風土保存地区	
歴史的風土特別保存区域	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 京都市. 史料 京都の歴史. 第14巻 右京区. 平凡社. 1994. p.439

2) 同上、 p.440

3) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.664

4) 京都市. 史料 京都の歴史. 第14巻 右京区. 平凡社. 1994. p.440

5) 同上、 p.440

6) 同上、 p.440

7) 同上、 p.438

8) 同上、 p.438

9) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.727

10) 京都市. 史料 京都の歴史. 第14巻 右京区. 平凡社. 1994. p.439

11) 同上、 p.440

12) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.664

13) 京都市. 史料 京都の歴史. 第14巻 右京区. 平凡社. 1994. p.440

14) 同上、 p.440

15) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.664

16) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.146

17) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.372-p.373

18) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.1085-p.1086

19) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.561

20) 同上、 p.727

21) 同上、 p.222

22) 同上、 p.736

23) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.665

24) 同上、 p.199

25) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.1083